

平成18年第6回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成18年5月30日(火)

午前9時13分開会

開催日時	平成18年5月30日	開会 9時13分 閉会 9時40分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員 長 伊東 浄堯 委 員 菊地 邦夫	委 員 伊藤 恒子 教 育 長 谷垣十四雄	
欠席委員	委員長職務代理者 亙理千鶴子		
説明のため出席した者の職氏名	教育部長 本多 龍雄 教育部次長兼生涯学習課長 石川 明 庶務課長 尾上 明彦 学務課長 福田 協司 指導室長 富士道正尋 指導主事 風見由起夫 指導主事 浜田 真二	公民館長 中嶋 登 図書館長 古屋 雅裕 体育課長 林 文男 庶務課長補佐兼庶務係長 小野 朗 生涯学習課長補佐兼生涯学習係長 伊藤 信之	
調 製	副主査 山内 和子		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	報告事項	1 平成18年第1回小金井市議会臨時会について 2 教職員人事権の移譲について 3 平成18年度小金井市立小・中学校児童生徒数調べについて 4 平成18年度校内研究主題について 5 中学校の合唱鑑賞教室について 6 平成18年度学習指導補助員・スクールカウンセラーの配置 状況について 7 その他 8 今後の日程について

開会 午前9時13分

伊東委員長 それでは、平成18年第6回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名。本日は、伊藤委員と菊地委員にお願いする。よろしいか。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

伊東委員長 本日は、報告事項からスタートする。

報告事項1、平成18年第1回小金井市議会臨時会について、ご報告をお願いする。

本多教育部長 それでは、平成18年第1回小金井市議会臨時会について、報告させていただきます。

平成18年第1回小金井市議会臨時会は、平成18年5月25日に告示され、5月29日に開会された。会期を1日と決定し、市長提出案件として専第1号、専決処分報告及び承認について、これは小金井市市税賦課徴収条例の一部を改正する条例についてである。それと、議案第41号、小金井市立小金井第二小学校校舎耐震補強工事(その2)請負契約について、議案第42号、小金井市立小金井第四小学校校舎耐震補強工事請負契約についてが提出され、審議された。専第1号については承認され、契約案件2件については可決された。それで、29日の正午に閉会している。

以上である。

伊東委員長 ありがとう。何かご質問あるか。よろしいか。

それでは、報告事項2、教職員人事権の移譲について、お願いする。

谷垣教育長 既にご承知だと思うが、中央教育審議会の審議で、中核市等への教員の人事権の移譲ということが課題になっている。国から都道府県へのヒアリングがあると聞いているが、それに基づき5月中旬に東京都教育委員会が教育長会、教育委員会連合会等からのヒアリングを行った。26市教育長会会長として私と、副会長の町田市教育

長と各市の教育長の意見をまとめた結果を述べてきたところである。現時点では広域人事のメリットを生かすため、現行制度を維持しながら市町村の実情に応じた弾力的な対応を図ることが必要であるという意見を述べてきた。その理由として、人事の硬直化を来し、活性化が図れなくなる。それから、自治体の財政力等に左右され、教育水準の確保が困難になる。3点に、区市町村によって人材確保に苦慮することになる等を挙げて、意見を述べてきたところである。ご理解のほど、よろしく願います。

伊東委員長 ありがとうございます。この件について何かご意見あるか。よろしいか。
それでは、報告事項3、平成18年度小金井市立小・中学校児童生徒数調べについて、願います。

福田学務課長 それでは、報告事項3の平成18年度小金井市立小・中学校児童生徒数調べについて、ご報告する。

5月1日を基準日とする学校基本調査がまとまった。この児童生徒数が向こう1年間の基礎数値になるところである。表の左側が普通学級、右側が心障学級になっている。

普通学級では小学校で児童数の合計が5,078人、昨年が5,012人、156学級、昨年が154学級。中学校では生徒数の合計が2,047人、昨年が2,019人、61学級、昨年が58学級。前年と比較して、小学校で66人増、学級数は2学級増えている。これは第一小学校と南小学校、1つずつである。また、中学校では生徒数が28人増え、学級数も3学級、これは緑中が2学級、南中が1学級増えている。1学級の平均人数を見ると、小学校では32.6人、昨年も同数である。中学校が33.6人、昨年は34.9人という状況で、ほぼ横ばいである。なお、四小の2年生であるが、学級維持制度の協議をして、同意を得て、80人であるが、前年度と同じ3学級ということで編制している。

右側の心障学級であるが、小学校の固定学級では一小の梅の実学級と、二小のさくら学級合わせて23人、昨年が25人、4学級のままである。中学校は二中の5組が12人、昨年は16人である。これも同様に2学級のままである。

下の通級学級については40人、昨年が36人ということで4人増えているが、学級数については、情緒2、難聴1、言語障害1と

いうことで4学級のままである。

以上で報告を終わる。

伊東委員長 ありがとうございます。

生徒が少しずつ増えてきているが、小金井市の人口の長期予想みたいなのはあるのか。

福田学務課長 推計的には横ばいということで聞いているが、特に小学校は一小の周辺にマンション等が建ち、増える傾向。正直いって、施設的にも、もし教室がもう1つ増えると、例えば、昼食で使っているランチルームとか他に使っている教室をかえるような形も必要になってくるような状況がある。児童生徒としては増える傾向なのかなと思う。

伊藤委員 通級学級の児童生徒はすべて小金井の方か。

福田学務課長 昨年も難聴言語等がすぐれているということで、一人通学しておりましたが、同様の形でことしも継続している。

伊東委員長 よろしいか。

それでは、報告事項4、平成18年度校内研究主題について、お願いします。

風見指導主事 平成18年度校内研究主題について報告する。

報告事項4資料をごらんいただきたい。市立小学校9校、市立中学校5校の研究主題を載せている。小学校では算数、国語を中心とした指導法の工夫が多くなっている。特に、かかわり合いといったテーマを掲げている学校が多くなっている。中学校では基礎・基本の定着を目指した授業改善の取り組みが多くなっている。各学校ではそれぞれの主題をもとに、1年間研究授業を中心とした実践的な研究に取り組んでいく。

次のページをごらんいただきたい。東京都研究モデル校・推進校が緑中学校1校、市の学力向上推進指定校が小・中1校ずつ、市の研究奨励校が小学校3校。これらの学校も校内研究と連携しながら学校としての研究に取り組んでいく。また、市の研究奨励グループ

が3つある。各学校の教職員がグループで研究に取り組んでいく。ここに申し上げたすべての研究にあたっては、研究授業をほかの学校の教員に公開したり、研究の成果をまとめ、市内の全学校に配布するなどし、自校だけでなく市全体の財産としていく予定である。

以上である。

伊東委員長 ありがとう。何かご質問、ご意見あるか。

菊地委員 研究主題というのは、各学校で毎年変わるわけか。

風見指導主事 研究主題のほうは変わる学校もあれば、2年という長い期間を設けて研究していく学校もある。

菊地委員 それで発表とか何かをやるわけか。

風見指導主事 発表を予定している学校もある。2枚目の資料の市の研究奨励校などは、研究発表の日を設けて市内の先生方にも授業を、研究の成果を見ていただく日を設けてある。

伊藤委員 それぞれに工夫されたテーマですばらしいなと思ったが、自分が学校関係にいたときは、研究という言葉に何の抵抗もなかったが、保護者の立場に立ってみると、研究という言葉は大変抵抗があるようである。また、研究というのは何だろうと、とても疑問に思っておいでになるようである。これから公開したり保護者にお知らせしていくときに、研究というのはどういうことなのか、親にわかるような言葉でPRをしていく必要があると思っている。研究というのは、うちの子どもはどんなことを研究されるのかという思いとか、先生方がどうやったら子どもたちにわかってもらえるのか、子どもたちをどう育てていくのかということの研究するんだということをかみ砕いてやっていかないと、自分たちの子どもは研究材料にされているのかということとか、学校で思っている研究という意味と、保護者がとる研究とは大いに差があるということを感じている。指導室のほうで今後そういったことも気をつけてというか、気を配って研究発表等にかかわっていただけたら、より理解が深まるのではないかなと思っている。

以上である。

伊東委員長 ありがとう。

それでは、報告事項5、中学校の合唱鑑賞教室について、お願いする。

浜田指導主事 去る5月11日木曜日、午後2時より武蔵野市民文化会館において合唱鑑賞教室を開催した。対象は市立中学校第二学年で、参加生徒は677名であった。出演は二期会合唱団で、約90分の演奏であった。今年度は中学生が合唱曲として多く歌われている曲を取り入れたり、全員合唱の際には、二期会合唱団が観客席の通路に来て一緒に合唱するなど、プログラムの工夫がされていた。また、生徒たちの鑑賞態度もよく、すばらしい合唱鑑賞教室を開催することができた。

以上である。

伊東委員長 ありがとう。この間、オーケストラもあった。今度はこういう合唱。オーケストラも中学生であったか。

浜田指導主事 オーケストラは小学生である。

伊東委員長 失礼した。

それでは、報告事項6、平成18年度学習指導補助員・スクールカウンセラーの配置状況について、お願いする。

浜田指導主事 報告事項6資料をごらんいただきたい。学習指導員及びスクールカウンセラーの配置が決定したのでご報告する。

学習指導員については、主に保健室登校等の児童生徒に対して学習指導をしていただくことになっているが、臨床心理士資格予定の東京学芸大学の大学院生6名が配置されている。また小学校については、巡回スクールカウンセラーが市の予算で東京学芸大学の大学院2年生が各校に配置されている。中学校については、都の予算でスクールカウンセラーが各校に配置されている。

以上である。

伊東委員長 ありがとうございます。
 学習補助員のところを見ると、緑中学校に〇が5つついている。
 ほかのところはほとんどないが、それはどうしてか。

浜田指導主事 この学習指導員の制度については、基本的に一対一の個別の対応
 で、1年間という期間で指導していくことになる。全校に募集を
 かけたところ、保健室登校等の別室ならば登校できているという児童
 生徒の状況を提出していただいた。その中で10名、10事例の児
 童生徒の調書が上がってきたが、そのうち7名が緑中であった。そ
 して、幾つかの条件で絞っていったところ、学芸大学の教授との相
 談の結果、このような配置となった。
 以上である。

伊東委員長 ありがとうございます。よろしいか。
 その他について、あるか。

尾上庶務課長 それでは私のほうから、教育委員にかかる会議などの開催結果な
 どについて、3件ご報告する。
 1件目であるが、1都9県の市町村教育委員が一堂に会して、5
 月18日木曜日に関東甲信静市町村教育委員会連合会総会並びに研
 修会が鎌倉市の鎌倉芸術館で開催された。本教育委員会からは、伊
 東委員長、亘理委員長職務代理人、伊藤委員、菊地委員にご出席
 いただいた。
 総会は、平成17年度の事業報告及び会計決算、18年度事業計
 画及び会計予算、そして平成18年度の会長、副会長、監事の選出
 等の議事があり、いずれも原案どおり承認、可決されているところ
 である。18年度の会長については、神奈川県平塚市の杉山幸子委
 員長、副会長には東京都多摩市の中進士委員長及び静岡県浜松市
 の熊田俊博委員長が選出された。また、監事については、静岡県浜
 松市の土屋勲委員長及び山梨県甲府市の角田智重委員長が選出さ
 れている。
 続いて5月25日木曜日、東京都市町村教育委員会連合会第50
 回定期総会が東京自治会館で行われた。当日は、伊東委員長、伊
 藤委員にご出席いただいている。
 内容については、平成17年度の事業報告及び歳入歳出決算、平

成18年度事業計画及び平成18年度歳入歳出予算、また会長、副会長、理事などの選任についてご審議いただき、いずれも原案どおり承認、可決されている。なお、18年度の会長については、稲城市の安江元治委員長、副会長に羽村市の加瀬哲夫委員長と奥多摩町の本村光恵委員長が選任されている。

最後にもう1点、平成18年度小金井市奨学資金運営委員会が先週の金曜日、5月26日に開催されたので、ご報告する。

教育委員会からは伊藤委員に奨学資金運営委員会委員としてご出席いただいた。当日は、本年4月1日から委員になられた山本小金井第一中学校校長、また4月12日から公募により委員になられた三笠委員の委嘱状の交付の後、教育長のごあいさつをいただき、議事に入った。

事務局により、小金井市奨学資金の概要、平成17年度の奨学資金の運営状況及び平成18年度の奨学生の応募状況、評価算出方法についての説明の後に、平成18年度の奨学生を選定した。18年度の応募者、高校生36人、大学生13人の中から、高校生35人と補欠1人、大学生3人と補欠2人を選定し、市長に答申をしている。

また、平成17年度第2回奨学資金運営委員会では本奨学資金の成果の確認ということで、奨学生にレポートの提出を求めることをご議決いただいているところであるが、レポートの課題とか、レポートの書式についてご協議いただき、次年度以降の奨学生募集の際の要項に奨学生のレポートの要旨をご紹介することも試みてはとのご意見が出されていた。

私からは以上である。

伊東委員長

ありがとう。その他あるか。

それでは私のほうからお願いというか、最近思うことをちょっとお話しさせていただきたいと思う。先ほども教職員人事権の移譲についてということで谷垣教育長のほうからお話があったが、国の制度や都の制度で小金井市の教育も、国全体であり都全体として動く場合もあるが、小金井市として学校教育というものを今こそ真剣に、長期展望に立った、足腰のしっかりしたものにしていかなければならないんじゃないかと思っている。どうしても今、都や国の制度によって動かされるものが大変多いわけであるが、小金井市は小金井

市で長期展望に立った上で物を考えていかなければならないだろうとを感じるわけである。

例えば、学区域の問題であるとか少人数学級の問題、それから学期性の問題、各市、各区がそれぞれ考えて、新しいものを取り入れてきている。小金井市は大変すばらしくなっていると思うが、これから小金井市らしい教育をするにはどうしたらいいのか、小金井市という立地条件、それから住んでいる方、それから公立学校の下さをもっと出すにはどうしたらいいだろうか。もちろん落ちこぼれがあってはいけないし、また反面、伸ばす子をもっと伸ばしてあげるような教育はどうしたらいいんだろうかなど、小金井市でなければならない教育、小金井市で教育を受けてよかったと思えるような教育にするには、例えば10年展望であるとか、5年の中期計画であるとか、または2年、3年の近い計画であるとか、そういうものを考えて目標設定していかなければいけないんじゃないかと感じている。

例えば給食の問題についてもそうであろうし、担当の方も大変ご苦労なさっているが、やはりこれもいついつまでにこういうふうにしようというものを、明確に一つの目標設定していくことによって説得力も出てくるであろうし、なぜそうなのかということ、予算的な裏付けでも当然出てくると思う。そういうような長期展望に立った小金井の教育ということを今はっきり考えていかないといけないと思う。

なぜ今かという、もう1つは中央線の高架がある。中央線が高架化になると当然、学区域の見直しもある。それと同時に、たくさんのがかかわって変更されてくるんじゃないかと思う。そのようなときに、なぜこうなんだと、これは10年先こういう教育を目指している、5年先こういう教育を目指している、そういう目標をしっかり持っていったほうが、小金井市の教育がますます充実するし、また校長先生も副校長先生もそれを目指して頑張っていただけじゃないかなという気がする。

最近思うことで、こういうことができたらいいなという感想みたいなことを話させていただいた。ご検討いただければありがたいと思う。

それでは、今後の日程について、お願いします。

尾上庶務課長 それでは、教育委員会今後の日程についてご報告する。

第16回小金井市シニアスポーツフェスティバル開会式、6月3日土曜日、午前10時から小金井市総合体育館大体育室で開催予定である。委員長、教育長のご出席をお願いする。

次に、多摩・島しょ子ども体験塾共同事業「米村でんじろう」のスーパーサイエンスショーの第1ブロック、これは武蔵野市、三鷹市、小金井市、国分寺市、国立市で構成しているが、開催予定が6月24日土曜日、午前11時から国分寺市いずみホールで開催予定である。これは定員740名に対して応募者が5,780人ということで、倍率が7.8倍と聞いている。

続いて、第7回教育委員会が7月11日火曜日、午後1時30分から本会場で開催予定である。

また、東京都市教育長会主催の研修会が7月27日木曜日、午後2時からの開催予定にさせていただいているが、今年度は私ども小金井市教育委員会が東京都市教育長会の事務局であるので、その関係もあるが、日本体操協会副会長の塚原光男氏に内諾を得ているという状況である。テーマは、教育・指導・子育ての関係で調整をしている。これは各市教育長の皆様だけではなくて、教育委員、学校長その他事務局職員と広く対象としているので、ご参加をお願いしたい。

引き続き、第8回教育委員会が8月8日火曜日、午後1時30分から本会場で開催予定である。

また、東京都市町村教育委員会連合会第2回常任理事会及び理事会が8月21日月曜日、午後2時から自治会館で開催予定である。委員長のご出席をお願いする。

あと、市町村教育委員会研究協議会が8月24日木曜日と25日金曜日、千葉市で開催予定である。

第9回教育委員会が8月31日木曜日、午後1時30分から、これは市議会定例会の関係があり、こういう日程になっている。本会場で開催予定である。

日程については以上である。

伊東委員長 ありがとう。

それでは、平成18年第6回小金井市教育委員会定例会を終了する。

閉会 午前9時40分